

島原の方言



2015年PDF版

あひる書店発行

編集 がまだ・さんこつ

<はじめに>

島原の方言といっても、明確にこれが島原弁だという言葉は、いまはだんだんと少なくなりつつあるように思います。

わたしが小学生のころは、同じ島原市内でもそれぞれの小学校の校区で、言葉が微妙に違っていました。

職業によっても違っていたように思います。農家の子供、商店の子供、漁師の子供、子供たちは親兄弟や近所の大人たちから言葉を覚えるわけですから、生まれた土地に住み続け、親の仕事を受け継いで暮らしてきた人たちの言葉は、その生活様式に応じてもっともコミュニケーションが取りやすいように発達してきたのではないかと思います。

その多様に発達してきた方言が、急激に変化し始めたのは昭和 30 年代の高度成長期からではないでしょうか。

地方から毎年大勢の若者たちが、就職や進学のために東京や大阪という大都市に集まり、それらの大都市で標準的に使われている言葉を「共通語」として覚え、使い始めます。

その若者たちの一部は再び結婚や転職などで故郷にUターンすると、大都市で身に付いた言葉と、子供時代から使ってきた地元の言葉とがミックスされた、いわばハイブリッド方言を使います。

もともと島原半島の北部は佐賀弁の影響が強く、南部は熊本・天草弁に近かったようですが、地域内でも人の交流や移動が活発になるにつれて、それ

も混じり合って、新しい島原弁が日々生まれているのかもしれませんが。

そうした人の行き来によって、違った地域どうし、お互いの言葉が影響しあうということは、昔からあったことでしょうが、江戸時代や明治時代の人の往来と比べると、現代の日本では、飛行機や新幹線、車など、交通の発達により、毎日比べものにならない数の人々が、ものすごい速さで日本全国を移動し、さらにインターネットの出現によって、地方の言葉もどんどん変化し始めているように感じられます。

というような状況ですので、「島原の方言」とはどこからどこまでですかと、問われてもその線引きは非常に難しいと思います。

以前は島原では使う人は少なかったような他地域の言葉でも、いまでは普通に耳にするようになった言葉もあれば、もうそんな言葉を使っている人はいないのではないかと思われるようなディープな島原弁もあります。

最初にお断りしておきますが、ここに集めた「島原の方言」はあくまでもわたしの子供時代から現在にいたるまで、周りの人たちが使っているのを耳にし、また、わたしを含めていまでも使用している言葉です。

独断と偏見で集めたものと言ってもいいかもしれませんが。

「あれが入ってない」「これは知らん」といった言葉もあるでしょうが、その辺は今後改訂を重ねていくつもりですので、その都度ご指摘ください。

2015年11月11日 がまだ・さんこつ

あい 「あれ」のことです。「あれ」が欲しいとか「あれ」をしたいとかの「あれ」。あとに続く言葉によって「あっ」という場合もあります。音便形というやつです。「あつ」ではなくて小さい「っ」の「あっ」です

例文

「あいば取ってきて」

「あいてどいね？」

「あいはあつたい」

和訳

「あれを取ってきて」

「あれってどれよ？」

「あれはあれだよ」

※「これ」は「こい」 「それ」は「そい」 「どれ」は「どい」

「あいでんこいでん」は「愛でも恋でも」の意味にも「あれでもこれでも」の意味にもなります

あいどん 「あいつら」「あいつたち」

例文

「あいどんな、たいがいのぼせちよっ」

「くらせろ」

和訳

「あいつら、いいかげん調子づいてるぜ」

「なぐっちゃえ」

あいどみや 「あいつらは」

あいや 「あらまあ」「おやおや」「オーマイゴッド」

あえる 「落ちる」ということです

例文

「道に 100 円あえちよった」

「また洋服ば汚して！ あろてんあろてんあえんとやっけん」

和訳

「道に 100 円落ちてた」

「また洋服を汚して！ 洗っても洗っても落ちないんだから」

あおのけ または **おおのけ** 「あおむけ」のことです

例文

「あおのけにならんね、はよう」

「なっちよっとん」

「どうまた、真っ黒日焼けして前も後ろも分からんとん」

和訳

「あおむけになってよ、はやく」

「なってるじゃん」

「オーマイゴッド！ 真っ黒に日焼けしてるから前も後ろも分かんないよ」

あがしこ 「あれだけ」 **こがしこ** 「これだけ」 **そがしこ** 「それだけ」

どがしこ 「どれだけ」

例文

「あがしこ言うとなったいに、また、きゃあまちごうてから」

和訳

「あれだけ言っといたのに、また、間違えてしまって」

あがん 「あんな」「あのような」という意味 **こがん** 「こんな」 **そがん** 「そ
んな」 **どがん** 「どんな」

例文

「母ちゃん、こら、どがんすればよかと？」

「そら、あがんして、こがんして、そがんすればよかったい」

和訳

「母ちゃん、これはどうすればいいの？」

「それは、ああして、こうして、そうすればいいのよ」

あじくろう 「あじをしめる」という意味です 「あじをしめる」って鰯を締めるんじゃないですよ 「味を占める」です 「一度うまうまいったことからその妙味を知り、暗に次にも同様のことを期待する」という意味 (goo 国語辞書)

あせがる 「急ぐ」という意味です

例文

「あせがってご飯ば食べにや学校に遅るっよ」

和訳

「急いでご飯を食べなきゃ学校に遅れるよ」

あせくる 「かきまわす」という意味

例文

「そがんあせくったら、いや～ん」

和訳

「そんなにかきまわしたら、いや～ん」

あた 「いたずら」のことです

あたる 「いたづらをする」

例文

「あたせんとよ」

和訳

「いたづらししないのよ」

あたん 「あなた」または「あんた」という意味です

例文

「あたんなどけ行っちょらした？」

和訳

「あなたはどこに行ってらしたんですか？」

あたんげ 「あなた（あんた）の家」という意味

あたんね 同じく「あなた（あんた）の家」という意味

例文

「今夜はあたんねに泊めちくれんかない」

「豚小屋でよかならよかよ」

和訳

「今夜はあんたの家に泊めてくれないかな」

「豚小屋でよかったらいいよ」

あっか 「赤い」「明るい」

例文

「うさぎの目はなしてあっかと？」

「ニンジンばたぶっけんじゃなか？」

和訳

「うさぎの目はなぜ赤いの？」

「ニンジン食べるからじゃない？」

あっちさん 「あっちのほうへ」

あっちちゃん 同じく「あっちのほうへ」

例文

「アッチちゃん、あっちちゃん行くぎつまらんとよ」

和訳

「アッチちゃん、あっちのほうへ行ったら駄目だよ」

あっどん 「あれら」「あいつら」

例文

「あっどんな、どがんもこがんもならん」

「くらせろ」

和訳

「あいつらは、どうにもこうにもならない」

「なぐちまえ」

あにやん 「お兄さん」

あねしゃん 「お姉さん」

例文

「あねしゃんな どけ行ったろかい あねしゃんな どけ行ったろかい」

和訳

「お姉さんは どこに行ったろうか お姉さんは どこに行ったろうか」

※ これは「島原の子守歌」の一節ですが、この「あねしゃん」は「からゆきさん」として女衞（ぜげん）にだまされて売られて行ったのです。

「からゆき」さんについては別項で詳しく紹介したいと思います。

あまる 子どもがふざけてさわいだり暴れたりすること

例文

「あんたたちやあまったらつまらんとよ」

和訳

「あんたたちはふざけたら駄目なんだよ」

あもじょ 「おばけ」「幽霊」の意味ですが、これは島原弁と言えるのか、それとも極めてローカルな言葉なのか確認できていません。子ども時代にわが家の周辺では使っていました（島原市高島町）

あもよ 「あもよ～」とも言っていたので、もしかしたら「あの世」というのが本来の意味だったかもしれません。

例文

「あもじょ～」

「ああ、おとろし」

和訳

「おばけだぞ～」

「ああ、おそろしい」

あんやっ 「あいつ」という意味

例文

「あんやちゃ、のぼせちよつと」

「くらせろ」

和訳

「あいつは調子にのってるよ」

「なぐれ」

いい 「うん」という意味 語源は唯々諾々（いいだくだく）の「いい」
かもしれません。

例文

「あいば持ってきて」

「いい」

「あいで分かっとな？」

「いい」

和訳

「あれを持ってきて」

「うん」

「あれで分かるの？」

「うん」

いかにゃん 「行かないと」「行かなければ」という意味

※ 語尾に「にゃん」が付くと「～ねばならない」という意味になる

例文

「花子ちゃんの待ちよらすけん、はよ行かにゃん」

和訳

「花子ちゃんが待ってるから、早く行かなきゃ」

いが 「こども」のこと

いがもり 「子守」のこと

いげ 「刺（とげ）」のこと

いっち 「最も」「一番に」という意味です

例文

「あたんが、いっちよか。いっち好いちよっとよ」

和訳

「あなたが一番いい。一番好きなのよ」

いっちょ 「一つ」のことです

例文

「映画は面白かったね？」

「いっちょん面白なかった」

和訳

「映画は面白かった？」

「一つも面白くなかった」

いっちょく 「置いていく」「置き去りにする」

例文

「はよせにゃいっちょかるっとよ」

和訳

「早くしないと置いていかれるよ」

いを 「魚」

いん 「犬」

いんにゃ 「いいえ」「いいや」という意味

例文

「あんな北海道に行っただらしたげなとん」

「いんにゃ、おら沖縄に行ってきたと」

和訳

「あんな北海道に行ってきたんだって？」

「いいや、おれは沖縄に行ってきたんだよ」

ううばんげか 「いいかげんな」「てきと一な」

例文

「太郎兵衛どんな、いっちょん約束ば守らっさんと」

「あんわりやいっでんじゃもん」

「ううばんげかと」

「そがん」

和訳

「太郎兵衛さんは、ちっとも約束を守らないんだよ」

「あの人はいつでもだもん」

「いいかげんなんだ」

「そうだよ」

うしっつ

うしてる

「捨てる」という意味ですが、たぶん「打ち捨てる」から転訛したのだでしょうね。

例文

「靴ばひろた」

「へえ」

「ありゃ、いんのクソんひっついちよっ」

「よっそわしか、うしてろ」

和訳

「靴ひろった」

「へえ」

「あれ、犬のクソがくっついてるぞ」

「きたないよ、捨てろよ」

うてあう 「相手にする」という意味

例文

「となりん婆さんのしょっちゅううちに来て、じえんば貸せ、じえんば貸せ
って言わすとじゃもん」

「そがんとは、うてあうな」

「ばってんがさ、むかしゃよかおなごやったとばってんなあ」

和訳

「隣の婆さんがしょっちゅううちに来て、金を貸せ、金を貸せって言うんだ
もん」

「そんなのは相手にするなよ」

「でもなあ、昔はいい女だったんだけどなあ」

うっちゃえる 「落ちる」という意味ですが、どっちかという「落っこちる」感じ

うっちゃゆっ おっちゃくっ おっちゃける とも言います

例文

「じいちゃん、立ちきらっさんと」

「なしてな？」

「屋根からうっちゃえらしたとげな」

和訳

「おじいちゃん、立てないんだって」

「どうしてだい？」

「屋根から落っこちたんだってさ」

※ この例文中の「立ちきらっさん」は、現代日本語に翻訳するのはちょっと難しいですね 「立ちきらっさん」は「立ちきらす」の否定形です。語尾の「～らす」は敬語表現なのですが、目上の人や年長者に対しては日常的に頻繁に使いますので、共通語で「立つことがおできにならない」と言うと、あまりにもオーバー、ばか丁寧になってしまいます。もっとくだけた、フレンドリーな感じでの敬語表現です。

うっちゃかす 「落とす」という意味 「おっちゃかす」 とも言います

おっちゃかす

例文

「あいたあ～、500 円玉ば便所でおっちゃかしたごたっ」

和訳

「オーマイゴッド！ 500 円玉をトイレで落っことしたみたい」

えっと 「あまり～ではない」というときの「あまり」という意味

例文

「あそこんちゃんぽんは、うまかった？」

「えっとうもなかった」

和訳

「あそこのちゃんぽん、うまかった？」

「あまりうまくなかったよ」

おい 「おれ」の意味 主に男が使うことば

おる 「おい」はいまでもよく使いますが、「おる」と言う人は少なくなりました。

おいげ 「おれの家」「おれんち」

おるげ 同じく「おれんち」という意味ですが、お年寄りしか使いません

例文

「たまにゃ、おいげにも遊びに来いや」

「とおかんば。わんねまで何万光年もあつとば」

「なんまんこうねん？」

「そう」

「そがんあいか！」

和訳

「たまにはうちにも遊びに来いよ」

「遠いんだから。おまえんちまでは何万光年もあるんだから」

「なんまんこうねん？」

「そう」

「そんなにあるかい！」

おいどん 「おれたち」

おどん 「わたし」

おどみゃ 「わたしは」

例文

「おどみゃ 島原の おどみゃ 島原の なしの木育ちよ」（「島原の子守歌」より）

和訳

「わたしゃ 島原の わたしゃ 島原の なしの木育ちよ」

おえる 「生える」「成長する」「年を取る」「ふける」などのニュアンスをすべて含んだ言葉

ちなみに、「おえる（生へる）」としてネット辞典の goo 国語辞典にも載っていますから古語なんでしょうね。

goo 国語辞典では、意味は

「1 はえる。 2 陰茎が勃起する」とありますが、島原弁としては2の意味で使うことはないです。

すごいですね「インケイがボッキ」ですよ！

陰茎が勃起することを、「生える」と言っていた時代や地域があるんですね。たしかに、小さいきのこがだんだんと大きくなって、成長していく感じはありますからね。

例文

「オクラばプランターで育ててみたとぼってん、気付いたらもうおえちよって固うして食われんごたる」

和訳

「オクラをプランターで育ててみたんだけど、気付いたらもう育ちすぎていて固くて食べられないみたい」

おおどか 「生意気だ」

おおどぼうず 「腕白少年」「生意気なガキ」

例文

「うちん孫はたいがいおおどぼうずばない」

「そらあ、爺さんに似たったない」

和訳

「うちの孫はすっげえ生意気坊主なんだよ」

「そりゃあ、爺さんに似たんだよ」

おかつつあま 「奥様」の意味です 目上の女性に対する敬語です

おじる 「ビビる」「こわがる」

例文

「うちん孫娘もたいがいおおどか。いっちょんおじらんとじゃけん」

「いい、そがんじゃろもん。おなごんほうがおおどかち。うちんかかもそがんたない」

和訳

「うちの孫娘もすごい生意気なんだよ。ひとつも怖がらないんだから」

「うん。そうだろうよ。おんなのほうが生意気なんだ。うちの奥さんもそう

なんだ」

おじやん 「おじさん」

おばやん 「おばさん」

おっかん 「お母さん」

おっとん 「お父さん」

おっとる 「盗む」という意味

例文

「こないだ貸した1万円ば返して」

「ありゃあ、財布に入れちゃった100万円のなか！ おっとられたとばい」

「はいはい」

和訳

「こないだ貸した1万円返して」

「ありゃあ、財布に入れといた100万円がない！ 盗まれちゃったよ」

「はいはい」

おっとろし 「ああ、こわい」「おそろしい」

おなご 「女の人」

おめく 「叫ぶ」「大声を出す」

例文

「あら、うちんチームは負けちよるばい」

「応援のたらんとど。みんなでふとか声でおめこで」

和訳

「あら、うちのチームは負けてるよ」

「応援が足りないんだよ。みんなで大きな声で叫ぼうよ」

おらん 「おる」の否定形 「いない」

例文

「あんた、彼女はおると？」

「おるおる」

和訳

「あんた、彼女はいるの？」

「いるいる」

おらす 「おる」の軽い敬語表現

例文

「スナックまゆみのママさんな、たいてきれかね。彼氏とかおらすとやろね」

「おらんげな」

「ほんてや？」

「ばってん、孫はおるげな」

和訳

「スナックまゆみのママさんは、とてもきれいだね。彼氏とかいるんだらうね」

「いないんだって」

「ほんとに？」

「でも、孫はいるらしい」

おらっさん 「いない」の敬語表現だが、リスペクトの意味は含みながらもフレンドリーなだけで感じた感じの表現 「おらす」の否定形

例文

「母ちゃんな、おらしたとね？」

「いんにゃ、おらっさんやった」

和訳

「母ちゃん、いた？」

「いいや、いなかった」

おる 「いる」という意味

おる 「俺（おれ）」の意味 いまは「**おい**」というほうが多い

おろいか 「おんぼろだ」「程度が悪い」という意味

例文

「バイクばもろたとて？」

「もろたちやもろたとばってん、やっちやおろいかった」

和訳

「バイクもらったんだって？」

「もらったことはもらったんだけど、めちゃボロかった」

おろろん おろろん おろろんばい

宮崎康平作詞「島原の子守歌」に出て来る言葉ですが、意味は分かりません。

たぶん、「おろおろと泣く」というような意味だと推測されます。

北海道に「日本海オロロンライン」という観光ルートがあるようですが、このオロロンは天売島に棲息するウミガラスの別名が「オロロン鳥」であることから来ているようです。

おろんころんして 「こけつまるびつ」「転がるようにして」

おんぶくれる 「おぼれる」という意味

例文

「あいた、からすまがり。おんぶくるっ。わろちよらんで助ける」

和訳

「しまった、足がつった。おぼれるよ。笑ってないで助けてくれ」

かあぶる 「いばる」「のぼせあがる」「調子こく」というような意味

きやあぶる とも言います。

例文

「あんやちゃ、こんごろかあぶっちょつとで」

「のぼすんなて、くらせろ」

和訳

「あいつ、このごろ調子こいてるんだぜ」

「のぼせるなって、なぐってやれ」

かごむ 「かがむ」「しゃがむ」という意味 かがむとしゃがむが一緒になつて出来た方言かもしれません。

最近あまり見ませんが、子供たちの遊びで「かごめ かごめ」というのがありますね。あれは、子供たちが ♪か〜ごめ かごめ か〜ごのな〜かのと〜り〜は♪ とうたいながら、真ん中でしゃがんだ子供の周りを大勢の子供たちが手をつないでまるく輪になってぐるぐる回るんですよ。

この場合の「かごめ」は「しゃがめ」というよりは、「囲め」という意味なんでしょうね。

この「かごめ歌」の歌詞は実は古代ヘブライ語であるという説をとнаえてい
る人たちもいます。

例文

「となりん爺ちゃんな、山にしば刈りに行って、ウンコすつとに草むらにか
ごじょらしたとげなもん」

「そらそがんじゃろ、便所はなかもんね」

「そしたら、イノシシん出て来たもんじゃっけん、逃げるに逃げられず」

「どがんさしたとね」

「出かかったもんば引っこむっわけにはいかんけん、じいーっとしまいまで
かごじょらしたって」

「へえ、そしてイノシシやどがんした」

『おろ～、人間のちゃ、やっちゃくさかよ』て言うて、鼻ばつまんで逃げて
行ったとげな」

「どうせ『しばは刈らずにくさかった』ていうオチじゃろもん」

「やかましか」

和訳

「隣の爺ちゃんは、山にしば刈りに行って、ウンコするのに草むらにしゃが
んでたんだってさ」

「そりゃあ、そうだよな、便所はないしね」

「そしたら、イノシシが出て来たもんだから、逃げるに逃げられず」

「どうしたの？」

「出かかったものを引っ込めるわけにはいかないし、じいーっと最後までしやがんでいたんだって」

「へえ、それでイノシシはどうしたの」

『オーマイゴッド！ 人間のはめっちゃくさいじゃん』って言って、鼻をつまんで逃げて行ったんだってさ」

「どうせ『しばは刈らずにくさかった』っていうオチだろう」

「うるさい」

かずむ 「(においを) かぐ」という意味

例文

「おいの屁はよかにおいど。ほら、かずんでみれ」

「う～ん、えくすたしい」

和訳

「おれの屁はいいにおいだよ。ほら、かいでみろ」

「う～～ん、エクスタシー」

かたす 「加える」「仲間に入れる」

例文

「わったちや、なんしよっとな」

「ミミズにしょんべんばかけよっ」と

「なしてそがんこいばすっど？」

「ばあちゃんの、ミミズにしょんべんかければ、ちんちんのふとなるて言わしたけん」

「そんなら、おいもかたして」

和訳

「おまえたち、何やってるの」

「ミミズにしょんべんかけてるんだよ」

「なんで、そんなことしてんだよ」

「ばあちゃんが、ミミズにしょんべんかけたら、ちんちんが大きくなるって言ったからだよ」

「それなら、おれも仲間に入れてくれ」

かてる 「付け加える」「おまけする」

例文

「いつでんこうてくれらすけん、大根ばかてちよくけんね」

和訳

「いつも買ってくれるから、大根をおまけしとくね」

かぼんす 「頭でっかち」 「仮分数（かぶんすう）」から来た言葉と思われ
れます。

がまだす 「がんばる」「精を出す」

からう 「背負う」

からすまがり 「けいれん」「足がつること」

がんば 「河豚（ふぐ）」のこと あまりにもおいしいので、食べるなら、
「がんば用意して食え（棺桶を用意して食え）」ということから「がんば」と
呼ばれるようになったと言われている。

きばる 「がんばる」「精を出す」

きびる 「しばる」という意味

きやあなえる 「疲れる」「しおれる」「へこむ」

きんなか 「黄色い」という意味

ぐうらしか 「かわいそうだ」という意味

例文

「ミヨちゃんな十八で死なしたげなとん、ぐうらしかねえ」

和訳

「ミヨちゃんは十八でなくなったそうだけど、かわいそうだねえ」

くちなわ 「へび」のこと

くらすみ 「暗闇」のこと

例文

「そがんくらすみにおらんで、もうちょっとこっちこんね」

和訳

「そんな暗いところじゃないで、もうちょっとこっちにおいで」

こい 「これ」「事（こと）」

例文

「ほら、わんのこいば呼びよらすぞ」

和訳

「ほら、おまえのことを呼んでるぞ」

こぎる 「値切る」という意味

ごっちゃん 「半煮えのご飯」のこと

こまか 「小さい」

こまんちょか 「ちっちゃい」

※ 強調するときは「こま〜んちょか」とのぼして言う。

こやらしか 「かわいらしい」

さるく 「歩く」「歩きまわる」という意味

さらく 同じく「歩く」「歩きまわる」という意味

例文

「島原ん町にゃ、猿田彦ん神様ん、あっちでんこっちでん、とにかく多かっど。どがしこあっとか分からん」

「そらあ、猿田彦だけにさるいたしこあっとじゃ？」

和訳

「島原の町には、猿田彦の神様が、あっちでもこっちでも、とにかく多いんだよ。どれだけあるのか分からん」

「そりゃあ、猿田彦だけに歩き回った分だけあるんじゃない？」（この訳は難しいですね。島原弁ならではのシャレですから）

じいあん 「じいちゃん」のこと 「ばあちゃん」は「**ばああん**」

じえん 「ぜに」「おかね」島原に限らず九州では「ぜ」の発音は「じえ」になることが多い。

例文

「じえんのじえんじえんなか」

和訳

「お金が全然ない」

しかぶる 「(オシッコを) もらす」こと ウンコの場合は「たいかぶる」と言う。

しこ 「～しこ」と語尾につけて「～だけ」「～の分」という意味

こがしこ 「これだけ」

そがしこ 「それだけ」

あがしこ 「あれだけ」

どがしこ 「どれだけ」

例文

「え？ 1万円であつたこがしこ？」

「消費税、インフレターゲット、円安、安倍政権に文句言うて」

和訳

「え？ 1万円でたったこれだけ？」

「消費税、インフレターゲット、円安、安倍政権に文句言って」

しこる 「いばる」「テンパる」「固くなる」「勃起する」

例文

わたしの子供のころ、こういう遊びがありました。

「花子ちゃん、イタリヤ・トルコ・滋賀盆地ば反対から言うてみて」

「ええと、チンボガシコルトヤリタイ」

いま、こういうことを女の子に言わせたら、間違いなくセクハラですよ。

ちなみに島原弁で「せくはら」とはお腹が痛いという意味にもなります。蛇足になりますが、イタリヤはイタリア、滋賀盆地は近江盆地というのが本当なんですが、まあ、子供の遊びですから。

じご 「尻」のこと 「ひえじご」とは「憶病」「こわがり」の意味

じごんす 「尻の穴」「アス・ホール」のこと ちなみに鼻の穴は「**はなんす**」です。

例文

「わら、あんまっ横着かこいば言いよったら、じごんすから手ば突っ込んで

奥歯ばガタガタ言わすっど」

和訳

「おまえ、あんまり横着なことを言ったら、尻の穴から手を突っ込んで奥歯ガタガタ言わせるぞ」

じだ 「地べた」「地面」のこと

例文

「じだにじごんすばじかにつけて座ったら、じになるて」

「へえ〜」

和訳

「地べたに尻の穴をじかにつけて座ったら、痔（じ）になるって」

「へえ〜」

じゅったんぼ 「水たまり」「ぬかるみ」の意味

すいちよっ 虫の名前（ウマオイムシ）ではありません。「好きだよ」という意味です。

例文

「おら、あたんばすいちよっと」

和訳

「おれは、あんたを好きなんだ」

すためる 「水やお茶などを、急須や容器から残らず出してしまおう」

例文

「お茶は、ようとん、すためにゃんよ」

和訳

「お茶は、よく最後まで出しきらないといけないよ」

すだる 「後ずさりをする」という意味

ずんだれる 「だらしなくする」という意味

例文

「古川、ずんだれちよっど。ズボンはちゃんと上げにゃ」

和訳

「古川、だらしないぞ。ズボンはちゃんと上げなきゃ」

せからしか 「うるさい」「わずらわしい」 発音としては「しえからしか」

せく 「(腹が) 痛む」

例文

「腹んせくと」

和訳

「腹が痛いんだよ」

せつくわ (石花) 「牡蛎 (かき)」のこと 石にくっついている天然のかきを言う。

せびらかす 「からかう」「おちよくる」

そいぎ 「それでは」「そしたら」の意味 別れぎわのあいさつにも使われる。「でわでわ」とか「それじゃあ」という感じですね。

そいぎら 「それでは」「そしたら」

そいぎった 「それでは」「そしたら」

例文

「そいぎ、これで失礼します」

「ちょっと待て、じえんばはろてから帰らんか」

和訳

「それでは、これで失礼します」

「ちょっと待て、金を払ってから帰らんか」

そうにゃ 「すごく」「大変に」という意味

例文

「ばあちゃんねで、ごっそになってきた」

「なんば食べたんね？」

「ちゃんぽん」

「うまかったんね？」

「うん。そうにゃうまかった」

和訳

「ばあちゃんの家で、ごちそうになってきた」

「何を食べたの？」

「ちゃんぽん」

「おいしかった？」

「うん。すごくおいしかったよ」

ぞおたん 「冗談（じょうだん）」 どおたんとも言う

ぞおたんのごつ 「冗談じゃない」

そがん 「そんな」「そのような」「そうだ」の意味

例文

「そがんこいば言うたらつまらん」

「そがんそがん」

和訳

「そんなことを言ったら駄目だ」

「そうだそうだ」

そがしこ 「それだけ」の意味

例文

「そがしこ言われたら、たいて腹も立つばない」

和訳

「それだけ言われたら、すごく腹も立ちますよ」

そがんこがんで 「そんなこんなで」

そけ 「そこに」「そこへ」の意味

例文

「お茶はそけ置いちよって」

「どけ？」

「こけ」

和訳

「お茶はそこに置いておいて」

「どこに？」

「ここに」

そびく 「引きずる」という意味

たいかぶる 「ウンコをもらす」という意味

「シッコをもらす」はしかぶると言う。

※ 「ウンコをもらす」には「べーしかぶる」という言い方もある。

あまり上品な表現ではないが、まあ、事態が事態だけに仕方がない。

ちなみに「べーしかぶる」は英語に聞こえるという人もいる。

たちえ 「棟上げ」「上棟式」のこと

ちゃびん これは方言ではないと思いますが、消滅しかかっているので載せておきます。「どびん」の意味です。ハゲチャビンと言えばつるつる頭のつるっぱげのこと。

ちやわんめご 「茶わんなどを洗って伏せておく籠（かご）」

ちょんぐわ 畑をたがやす鍬（くわ）のことです。

ちょうまき 「つむじ」のこと。頭のとっぺんの渦巻きです。

ちょこらかす 「からかう」「おちよくる」

ちんぐ 「知遇」「友人」朝鮮語が語源でしょうか。

ちんちろまい 「グルグル回ること」

ちんぼ 「男根」「男性器」「ペニス」のこと

つんぶるう 「振るい落とす」という意味

つんまげる 「曲げる」の意味

てまぜ 「手をいじくりまわすこと」「手遊び」

てまんご てまぜに同じ 「手まぜごと」から変化したんでしょうか？

例文

「ほら、てまぜしえんで、しえんしえいの話ば聞かんね」

和訳

「ほら、手遊びしてないで、先生の話聞きなさい」

てれんぱれんする 「ぶらぶらする」

例文

「よしお、そがんいつまででんてれんぱれんしちょらんで、父ちゃんの手伝
いばしなさい」

和訳

「よしお、そんなにいつまでもブラブラしてないで、お父さんの手伝いをし
なさい」

てんこぶ 「蜘蛛（くも）」

てんげ 「手ぬぐい」

といも 「唐いも」「サツマイモ」のこと

例文

「といもめしや 栗んめし といもめしや 栗んめし」（島原の子守歌）

和訳

「サツマイモを混ぜためしは （米のめしではなくて）栗のめし」

どうはっせん 「落花生」「南京豆」「ピーナツ」のこと

どんく 「蛙（かえる）」のこと

例文

「ひゃあ、こけふとかどんくんおっど」

和訳

「ほら、ここに大きなカエルがいるよ」

とーんな 「おかしな」「変な」

例文

「じいちゃんな、とーんなこいば言わすとよ」

「なんて？」

「うちに『姉さん』『姉さん』て」

「『ばあさん』『ばあさん』て言わるっよりはよかるもん」

和訳

「じいちゃん、変なことを言うのよ」

「何だって？」

「わたしに『姉さん』『姉さん』って」

「『ばあさん』『ばあさん』って言われるよりはいいだろう」

どんばら 「妊娠している人」

なおす 「片付ける」「収納する」

なし 「なぜ」

なして 「どうして」

なば 「茸（きのこ）」

例文

「うちんね来てみろ。畳になばん生えちよっとど」

和訳

「うちの家に来てみろ。畳にキノコが生えてるんだぞ」

なんか 「長い」

なんかかる 「寄り掛かる」「もたれ掛かる」

にくじ 「いじわる」「悪意で、わざと」

ぬすくる 「塗り付ける」

ぬっか 「暖かい」「暑い」

ねずむ 「つねる」

例文

わたしの子供のころの遊びで、こんながありました。

「ネズミば見せてやろか？」と、友達に言うと、

「うん。見せて」と友達。

「ほら、ネズミ～」と言って、相手の手をつねるのです。

ねまる 「腐る」という意味

ふつうは食べ物などが腐ることを「ねまる」という。

将棋などでもう次の手がない状態のことも「ねまる」という。

商店などで、全然売れない商品のことを「ねまっとる」とか「ねまっちよる」ということがある。

ねまっとる 「腐っている」という意味

ねまっちよる 「腐っている」という意味

例文

「おばちゃん、きのうのカレー冷蔵庫に入れちよかんやったけん、もうねまっちよるよ」

和訳

「おばちゃん、きのうのカレー冷蔵庫に入れてなかったから、もう腐ってるよ」

のさん 「たまらない」

例文

「ことしん冬は寒うしてのさんばい。こら、温暖化じゃのうして寒冷化ん始
まっちよつとばい」

和訳

「ことしの冬は寒くてたまらないよ。これは、温暖化じゃなくて寒冷化が始
まっているんだよ」

ばあやん 「ばあさん」

はさみたろー 「クワガタ虫」のこと。これは島原半島の北部で使われて
いたらしいのですが（山本靖民著『島原半島方言集』より）、あまり一般的で
はなくわたしも初めて知りました。でも、面白い言葉なので集録しておきま
す。現在も使われているかどうかは分かりません。

ばちかぶり 「罰当たり」

ばちかぶる 「罰が当たる」

はってく 「行ってしまおう」「去ってしまおう」

はばしか 「激しい」

はぶてる 「すねる」「ふてくされる」「ぷりぷり怒る」という感じです。

例文

「あら、あけみちゃんは、きちょうらんとね？」

「さっきまで、まっちょらしたとぼってん、あんたがあんまり遅かもんけん、

はぶててはってかした」

和訳

「あら、あけみちゃんは来てないの？」

「さっきまで、待ってたんだけど、あんたがあんまり遅いもんだから、怒っ

て行ってしまったよ」

ひえじご 「憶病者」「こわがり」

ひこくれちよる 「でこぼこしている」

例文

「こんミカンはまだ、えらいひこくれちよるね」

和訳

「このミカンはまだ、えらくでこぼこしてるね」

※ 山本靖民著「島原半島方言集」には、「ひこくれる」の意味は「くくれる」

と書かれています。わたしはこの使い方は聞いたことがありません。

もしかしたら、もともとは「ひっくくる」「ひっくくれる」という言葉がなまったものでしょうか。チャーシューや、ハムや、緊縛プレイなどで、糸や縄できつく「ひっくくる」と、お肉がはみ出て凸凹になるので、そうやってきつく縛ってあとが残ったものを「ひこくれ」と呼んだのではないかと、わたしは妄想するのですが、どうでしょうか。

ひっちやかましか 「やかましいの強調」

ひっちやかまし 「うるせえ！」という感じです。

ひっちやがいか 「はがゆい、腹立たしいの強調」

ひっちょちょわし 「よそわし（汚い）の強調形」

ひっかんげる 「こわれる」 「うっかんげる」とも言う。

びっしゃぐ 「つぶす」

びっしゃげる 「つぶれる」

例文

「あいたしこ！」

「なんしたんな？」

「足ん上に豆腐ばおっっちゃかしたら、親指んびっしやげた」

「ほおお」

和訳

「あいたた！」

「どうした？」

「足の上に豆腐を落としたら、親指がつぶれた」

「ほおお」

ひっとでる 「飛びだす」

例文

「父ちゃん、父ちゃんの大事なもののひっと出ちよるよ」

「ええ？ なんの出ちよつとな？」

「ほらあ、ふんどしん脇から父ちゃんのぼこちんのひっと出ちよつたい」

「ああ、こいや。こら立派すぎて、収まりきらんと」

和訳

「父ちゃん、父ちゃんの大事なものが飛びだしてるよ」

「ええ？ 何が出てるんだい？」

「ほらあ、ふんどしの脇から父ちゃんのぼこちんが飛びだしてるのよ」

「ああ、これか。これは立派すぎて、収まりきれないんだよ」

ひゅうなし 「甲斐性（かいしょう）なし」

ひゅうんなか 「甲斐性（かいしょう）がない」

ひょくっと 「ひょっこり」「急に」

ひょこっと 同じく

ひらくち 「マムシ」

ひんよごまんよごしちよる 「くねくねゆがんで、曲がっている」

ふうけ 「愚かなこと」「愚か者」

ふうけもん 「愚か者」

ふうちがい 「変人」「変わり者」

ふち 植物の「よもぎ」 「ふつ」とも言う。

ふなと 「漁民」「漁師」

ふのわるか 「運が悪い」

べー 「大便」「糞」

べーたんご 「肥えたご」「肥え桶」

以前は人糞を畑の肥料にしていたので、それを便所から汲んで入れておく桶（おけ）があった。

へっちん 「便所」「雪隠（せっちん）」がなまったのでしょうか。

へっちんたんご 「肥えたご」「肥え桶」

へっちんむし 「うじ虫」

ほがす 「穴を開ける」という意味

うっほがす つっほがす は強調形

例文

「そがんふとか声でおめくな。耳んつつぼぐっやっか」

和訳

「そんな大きな声で叫ぶな。鼓膜が破れるじゃないか」

ほっちらかす 「散らかす」「とっちらかす」

ぼっそり 「ごっそり」「全部」

ほとびる 「水分を吸って柔らかくなる」

ほとびらかす 「水などにつけて柔らかくする」

この言葉は伊勢物語の有名な場面に出て来ますので、古い言葉ですね。方言の中には、古い時代に一般的に使われていたような言葉が残っています。

方言を下品な言葉だとか、下等な言葉だと思っている人は、いまはあまりいないと思いますが、方言に残っている古い言葉を知ることは、昔の日本人の情緒や感情表現を知る上で大事なことだと思います。

例文

ある人のいはく「かきつばたといふ五文字を句の上に据ゑて、旅の心をよめ」と言ひければ、よめる。

「からころも 着つつなれにし つましあれば はるばる来ぬる旅をしぞ思ふ」とよめりければ、みな人、かれいひの上に涙おとして、**ほとびにけり**。

訳文

ある人が「かきつばたという五文字を句の上に置いて、旅の心を歌にしてみよ」と言ったので、詠んだ。

「長年着てきてすっかりなじんできたからころもの褌（つま）のように、長年連れ添ってなじんできた妻が都にるので、はるばるここまで来た旅空のわびしさを思わずにはいられない」と詠んだので、居合わせた人たちは皆、乾飯（かれいい：ご飯を干したもの）の上に涙をこぼしたので、かれいいはほとびてしまった。 <伊勢物語第九段（東下り）>

ぼーじょ 「お魚」 幼児言葉

ぼぼ 「女陰」「女性器」「バギナ」

ほめく 「ほてる」「熱を持つ」

ほんてが 「ホントだ」

ほんてや 「本当か」「ホントに」

ほんなこつ 「本当のこと」「本当だね」

例文

「社長が来月から給料ば倍にしてやるていいよらした」

「そら、ほんなこつか？」

和訳

「社長が来月から給料を倍にしてやると言っておられた」

「それは本当のことかい？」

ほんなこて 「本当だね」「そのとおりだね」

例文

「こがん、保険料は上げる年金はカットするていうたら、年寄りにゃはよ死ねて言われとるようなもんばい」

「ほんなこて」

和訳

「こんなに保険料は上げる年金はカットするといったら、年寄りには早く死ねと言われているようなものだよ」

「本当だね」

まちっと 「もう少し」

まちよこっと 「もうちょっと」

例文

「お客さん、まちよこっと待ちよってくれらっさんですか」

和訳

「お客さん、もうちょっと待っててもらえませんか」

みたむなか 「みっともない」

みどか 「かわいらしい」

みどがる 「かわいがる」

むぞか 「かわいらしい」

よか 「良い」「結構」

よそわしか 「汚い」「汚らわしい」

例文

「あけみちゃん、チューすうか？」

「よそわし！」

「ねえ、よかろもん」

和訳

「あけみちゃん、チューしようか？」

「汚らわしい！」

「ねえ、いいじゃないの」

よま 「紐（ひも）」

よんにゆ 「たくさん」という意味

よんにゆか 「多い」

例文

「よんにゆ入れちよこかい」

「そら、あんまりよんにゆかよ。まちよこっと減らして」

和訳

「たくさん入れておこうか」

「それは、あんまり多すぎるよ。もうちょっと減らして」

わい 「おまえ」という意味 「おれ」は「おい」

わいか 「悪い」

★参考にした本

山本靖民著 『島原半島方言集』 昭和 50 年 昭和堂印刷出版事業部

2015 年 PDF 版 「島原の方言」

編集 がまだ・さんこつ

発行 あひる書店 2015 年 11 月

<http://ahiru.aikotoba.jp/>